

## 編集後記

2018年2月号をお届けします。1月20日頃の大寒から2月4日頃の立春までは寒波の季節、また立春が過ぎてもまだまだ寒い日々が続きます。しかし季節はまたたく間に移って、2月も終われば梅の季節はもうすぐそこです。春が待ち遠しい今日この頃です。

さて、本号の特集は、「新生児・乳児消化管アレルギーの臨床と病型分類」です。新生児・乳児の消化管アレルギーについての多岐にわたる総説をいただきました。「疾患概念」では新生児・乳児消化管アレルギーの概念を解説していただきました。「診断と治療および予後」では診断と治療および予後について解説していただきました。「クラスター分類」では、わが国でよく用いられている、わが国独自の診断分類であるクラスター分類についての概説です。「重症度の判定と検査所見」では、炎症マーカーなどと他の検査所見をあわせ重症度判定をした経験をもとに重症度の判定について概説いただきました。「食物負荷試験と重症度分類」では診断のための食物負荷試験と、耐性獲得のための治療的食物負荷についての解説をいただきました。「消化管内視鏡検査の有用性」では、新生児・乳児消化管アレルギーの診断における消化管内視鏡検査の役割について概説いただきました。「診断治療困難な症例への対応」では、新生児・乳児消化管アレルギーの鑑別診断について、また、診断や治療が困難であった症例について、自験例をもとに概説いただきました。

以上、新生児・乳児消化管アレルギーについて小児科医が知っておくべき知識が網羅されている特集ですので、読者の先生方には、ご熟読いただき、日常診療にお役立ていただければと思います。

特集以外にも総説が載っています。「腎クリアランス」では腎クリアランスの概念から意義までわかりやすく解説をいただきました。「心エコーによる心機能評価の考え方」では、循環器専門でない小児科医にも分かるように心エコー検査について解説いただきました。「職域における麻疹・風疹対策の課題」では産業医として職域における麻疹・風疹対策をするうえでの課題について実践的な解説をいただきました。

そのほか診療に関する総説では、夜尿症の診療ガイドライン2016について、また、薬剤師の視点から小児感染症治療についての見解をいただきました。そのほか、小児副鼻腔炎に合併する頭蓋内合併症についての症例提示と解説をいただきました。症例報告も2編載っています。

「最近の外国業績より」では日本医科大学小児科教室から栄養・代謝・内分泌に関する論文を紹介いただきました。

以上、非常に充実した、日常診療に役立つ内容になっていますので、ご一読下さいようお願いいたします。

(中西 敏雄)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

## 小児科

第59巻第2号 2月号

2018年2月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,600円＋税）

年間購読料金

定価（本体41,000円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に記載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。